

(1) 活動性平均(上)の群 (注) ①活動能力 ②活動的遊びに対する参加度

A		B	
①上	②上	①下	②下
3才	4才	3才	4才
5才	5才	5才	5才
3名		2名	

このAの型三名は、活動能力、参加度も三年平均上で組で最も活発活動的な子どもたちである。

四才まで不活発で三年目五才組になり、急に活動性上に変つた子どもたちで社会性がなかつたためにその遊びも停観的であったが、社会性が出てくるにつれ、活動性を発揮するようになった。

(2) 活動性平均(下)の群

J		N	
①下	②下	①下	②下
3才	4才	3才	4才
5才	5才	5才	5才
2名		1名	

活動能力、参加度も三か年平均下であった。原因をみると、一名は軽度の心臓障害、他の一名は三才の時に肋膜炎をし、発育がおくれているうえに、家庭的にも問題があり不規則な生活が続いていることが原因としてあげられる。

運動に対し熱心でよく参加するが、平均台、その他の運動遊具を使うことが下手で特に律動的運動が不得手であるその他の説明略) 先天的に運動神経がよいのではないかと考えてみた。

ヴァインランド社会的成熟 尺度個人診断分析表の作成

呉・仁風園 佐藤 由子

K式改訂 Vineland Social Maturity Scale は最初アメリカの E Doll が考案したもので、これを、広島女子大で改訂標準化した。

この使用範囲は二〜六才児で、項目は Vineland のものがそのまま踏襲されている。ただし、改訂に際して△一二と三段階の細い具体的基礎内容が、各項目ごとに設けられ、評定が精密で客観的に出来信頼度が高められるように工夫されている。これを保育上に役立てる為に、幼児の発達過程において、個性化より社会化への段階を考慮して七方面から検討し、知能のような比較的単純な内容でなく、社会性の各分野に関する、殊に幼児の理解と指導ということを目指す目標とし、幼児の成熟度とその方向を知ろうとして、五、六才児の個人診断基準を作成した。現行の改訂版はアメリカの問題配列のままになっているので、私たちが幼児に実施してみるとこの配列ではわが国の幼児には年齢区分が不自然で不相当と思われる項目もある。Bin を調査してみると、いろいろ成熟未成熟な点が判明する。この調査は知能と切り離せない関係にあり、向性検査と比較してみることも合せて考えられる。

こうして調査した結果から、指導法すなわち躰の方面特に本人の弱い領域(例えば衣自律性、表現能力など)を助成してやるようにもっていかなくてはいけない。家庭環境からくるもの、本人の健康状態からくるもの、両親の子どもに対する態度、本人の素質、経済状態といろいろな角度から原因を追究しかつ解決してゆかねばならない。私達は Vineland を試みることによって、幼児が内容的に円満なる成長発達をとげるよう、個々の子どもをよく理解する一つの具体的方法として、この尺度の検討をおこなった次第です。